

第3章 令和元年度主要施策

1 「令和元年度主要施策」の点検・評価

(1) 自己点検・評価

ア はだのわくわく教育プラン（秦野市教育振興基本計画）に位置付けられた主要施策（19施策）及び教育プラン策定後に開始した重要施策（3施策）について、主管課等が自己点検・評価を実施しました。

イ 自己点検・評価をするに当たり、「成果に対する評価」、「取組に対する評価」、「改善の必要性」、「課題及び今後の方向性等」、「教育プラン目標達成に向けての進捗状況」の5項目について、主管課等及び部長の評価をA、B、C、Dの4段階で自己点検・評価を行いました。

(2) 教育施策点検・評価会議の評価

ア PTA役員や元学校長の学校教育関係者、社会教育委員、図書館協議会委員で組織する「教育施策点検・評価会議」において、主管課等が自己点検・評価した主要施策について客観的な評価を行いました。

イ 教育施策点検・評価会議においても、自己評価と同様に、A、B、C、Dの4段階での評価を行いました。

(3) 教育長・教育委員の評価

ア 点検・評価の方法

はだのわくわく教育プラン（秦野市教育振興基本計画）に位置付けられた主要施策（19施策）及び教育プラン策定後に開始した重要施策（3施策）について、主管課等と施策の取組内容等について相互に意見交換をする学習会を実施し、教育施策点検・評価会議の評価を踏まえて各施策について点検・評価を行いました。

イ 点検・評価の表記

(ア) 文章表記（要旨）

各教育委員から出された意見、要望、協議内容等を列記しています。

(イ) 4段階評価（ランク）

各項目について、次表のとおり、A、B、C、Dの4つのランクでの教育委員会としての評価を行いました。

ランク	評価A～Dの内容について
A 確実な成果を出している	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値に向けて計画のとおり実施することができ、優れた取組が見られた。 ○当初の目的を達成し、事業が完了した。
B 一定の成果を出している	<ul style="list-style-type: none"> ○施策としての充実した事業が行われた。 ○目標値への具体的な取組が十分に表れている。
C やや成果が低い	<ul style="list-style-type: none"> ○取組方法等を見直すことにより今以上の成果が期待できる。 ○施策推進の計画や方法を再考する必要がある。 ○更に工夫・改善が必要である。 ○一定の成果を上げて事業が完了したが、課題が残った。
D 成果が低い	<ul style="list-style-type: none"> ○費用対効果がほとんど上がっていない。 ○内容の抜本的な見直しや、廃止の検討が必要である。

(ウ) 令和元年度主要施策（22施策）の点検・評価結果

A評価： 4施策

B評価： 16施策

C評価： 2施策

D評価： 0施策

この評価結果を今後の施策実施に反映し、市民ニーズを的確に捉え、常に工夫改善をすべきであると考えます。

(4) 令和元年度主要施策一覧

No.	施 策 名	評価
1 未来に向かって、たくましく生きる子どもを育みます。		
1	確かな学力の定着・向上	B
2	いじめ等の対策の推進	B
3	不登校対策の推進	B
4	学校におけるICT化の推進	A
5	公立幼稚園の配置の見直し	B
6	教職員の多忙化対策の実施【プラン策定後重要施策】	B
2 地域力を生かした子どもと地域が共に育ちあう学校づくりを推進します。		
7	学校支援づくりの推進	B
8	支援教育の推進	B
3 子どもが安全に安心して学ぶことができる快適な教育環境づくりを推進します。		
9	西中学校体育館等複合施設の整備	B
10	学校施設長寿命化の推進	A
11	教育施設の一体的整備の研究	C
12	快適で安全・安心な学習環境の推進 【プラン策定後重要施策】	C
13	中学校給食の実施【プラン策定後重要施策】	B
14	学校図書館充実のための学校司書の拡充	B
4 市民が地域の資源を生かして生涯にわたり学習活動を行い、生きがいのある充実した人生を送ることができるように努めます。		
15	公民館事業の充実	B
16	魅力ある地域学習の推進	A
17	図書館サービスの充実	B
18	子どもの読書活動の支援	B
19	公民館施設長寿命化の推進	B
20	施設の長寿命化計画等の推進（図書館）	B
5 市民の文化活動の充実を図るとともに、郷土の伝統文化の伝承と文化財の保存・活用を通じ、郷土愛を育みます。		
21	文化財・歴史文化資料等の活用の推進	A
22	特色ある図書館づくりの推進	B

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課 教育研究所
教育 プランの 位置付け	1-1-1

No.1	施策名	確かな学力の定着・向上
施策の概要	目的	家庭・地域との連携のあり方、子どもの実態に基づいた主体的な問題解決学習、体験的学習の充実等を図り、特色ある園・学校づくりの研究を推進し、「確かな学力」の定着を図る。
	達成すべき目標	全国学力・学習状況調査による学習意欲に関する集計値が全国平均値以上

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項

- ・新学習指導要領の完全実施を踏まえ、新たな学力観に基づいた指導法の工夫改善についての研究を行うため、4小学校と2中学校を重点校に指定し、教育委員会と学校が協働して取り組んだ。
- ・全国学力・学習状況調査の結果については、学識経験者2名の参加による分析・検討委員会を組織し、本市の傾向や課題を分析することで、授業改善に向けた市全体の方向性を取りまとめるとともに、地域・家庭の協力につながるよう結果分析のダイジェスト版等を作成し各家庭への配布等に取り組んだ。更に、分析結果に基づき課題解決のための教材を作成・配付するとともに、各校の校内研究推進教員が中学校区ごとに分析結果の活用取組について情報共有を行うことで、小中一貫教育が目指す学びの連続性の確保に努めた。
- ・昨年度に続き、埼玉県戸田市など先進地区の視察を行うとともに、児童ホームでの寺子屋学習支援や民間企業と連携した放課後学習支援事業、家庭学習ノートの作成等、新たな学びのスタイル構築に向けた学習支援の充実を図った。
- ・東海大学との連携・協力により教職員を目指す学生を教科学習支援員として34名を全小中学校へ派遣するとともに、市内小中学校へ教育支援助手を67名派遣し、児童生徒への教科指導による基礎的・基本的事項の内容と生活指導による基本的生活習慣・学習習慣の定着を図った。

施策の経費	予算事業名	09・02・03・087・010・001 教育研究費(小学校) 09・03・03・091・010・001 教育研究費(中学校) 09・04・01・093・020・001 教育研究費(幼稚園) 09・02・01・085・040・001 小学校教育支援助手派遣事業費 09・03・01・089・040・001 中学校教育支援助手派遣事業費 09・01・02・083・100・001 学習支援事業費 09・01・02・083・170・001 学力向上推進費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	60,502	62,041	69,773	71,908	84,016	86,678
	決算額	59,126	59,683	67,447	70,253	82,768	
	執行率(%)	97.8	96.1	96.7	97.7	98.5	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	全国学力・学習状況調査による学習意欲に関する集計値(肯定的な回答の小中学校の国語・数学算数の平均値)	59.3	60	60.5	66.1	63.1	2年度集計値(未確定)
	教育指導助手の派遣人数(H29からは教育支援助手と改称)	58	60	62	64	66	
		60	61	63	67		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	経年変化で見ると、中学校では平均正答率・学習意欲ともに改善が見られるが、小学校については全国平均との差が開く結果となり課題が残る。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	A	家庭学習ノートの作成配布や放課後学習支援事業等の新規事業に取り組むとともに、各学校と協働して学力向上に取り組むことができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	学力向上について、教員の授業改善に対する意識を高める取組や学校研究への支援体制の強化を図る必要がある。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等		引き続き、確かな学力の定着に向けて現在の施策に継続的に取り組む。また、一貫教育の視点から小学校における授業改善が重要課題と見ており、次年度は新たな学力観に基づいた指導法の工夫改善についての研究校を1校増やし、授業改善を図るための取組を学校と協働で進めていく。また、小中一貫教育が目指す学びの連続性の確保に向けて、検討委員会のあり方を見直すとともに、次世代のリーダーとしての中堅教員と若手教員の育成という観点からも、学校研究における支援体制の強化を図り、児童生徒の学習意欲を向上させていく。		
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C	評価の理由		
	数値目標に対して中学校では改善傾向が見られたものの小学校においては改善が見られず、指導の連続性の観点から小中一貫による学力向上体制の構築を推し進めていく必要がある。また、分析結果を通して見えてくる学力向上の課題を踏まえ、改善の実践や取組の成果等について市内での共有化を図っていくとともに、一人ひとりの教員が学力・学習状況調査の分析結果を授業改善に活かすことができるよう工夫改善を図る必要がある。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	研究校を目標以上の6校に増やしたこと、家庭学習ノートを配布したことなど、毎年、授業改善や学校研究に努力していることは評価に値する。 確かな学力の定着・向上を図るためには、形式的な学習風聞にならないよう、指導法の工夫改善や授業内容の充実により、学ぼうとする意欲や分かる喜びを児童・生徒に感じさせていく必要がある。 分析に当たっては、中学校で一定の成果が認められることから、中学校での改善傾向をしっかりと分析し、小学校の課題・分析を明らかにしたうえで、小中学校で分析結果を共有していく必要がある。また、達成目標が、毎年実施される調査のデータを利用した変動的なものなので、調査対象が同じデータを追跡調査し、検証することで、さらなる効果が期待できる。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	確かな学力の定着・向上に向け、課題を検証し、それに対する対応策を具体的に実施していることは評価できる。 今後確かな歩みを続けるうえで、子どもたち自身の非認知能力を高める取組が重要になってくると考える。そのためには学校で子どもたちが達成感や自己肯定感、一体感等を感じられることと合わせて、家庭学習ノートの活用などを通して家庭と連携し、子どもたちの自己肯定感を高められるような声掛けや家庭学習の習慣の定着が必要になる。学校・家庭・地域への意識啓発により一層努めてほしい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課 教育研究所
教育 プランの 位置付け	1-2-2

No.2	施策名	いじめ等の対策の推進
施策の概要	目的	いじめ、暴力行為などの問題行動等に対し、学校、教育委員会、関係機関等が緊密に連携し、未然防止や早期発見・早期対応、さらには緊急対応、事後指導の各段階において、適切な対策を推進し、すべての子どもたちにとって「安全」「安心」な学校環境づくりを目指す。
	達成すべき目標	認知したいじめの改善率100%（次年度7月時点で確認）
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小・中学校の代表児童・生徒による「いじめを考える児童生徒委員会」を年4回開催し、意見交換やポスターセッション、ICTアプリ「ロイロノート・スクール」等を用いた発表を行い、子どもたちを主体としたいじめ根絶、いじめ問題への適切な対応への取組を進めた。 ・いじめの未然防止、いじめ問題への適切な対応に向けて、中学校区ごとに「スローガン」を決め、さらに「はだのっ子生活スタンダード」を策定し、いじめ未然防止への機運を高めた。 ・学校が抱えるいじめ問題等の具体的支援や教育相談の方法について専門家の助言を得るため、いじめ対策巡回教育相談事業により臨床心理士、学校心理士を講師として派遣し充実を図った。 ・「秦野市いじめ問題対策調査委員会」を3回開催し、現代社会のいじめ問題、学校の危機管理の対策等を総合的かつ効果的に推進するための助言を受けた。その助言を基に認知したいじめへの適切な対応等について「いじめ問題対策連絡協議会」において協議した。 	

施策の経費	予算事業名	09・01・02・083・120・001 いじめ・不登校対策事業費 09・01・03・084・020・001 教育支援教室運営事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	16,554	17,906	17,866	18,532	17,627	11,143
	決算額	16,273	17,233	16,893	17,844	16,280	
	執行率(%)	98.3	96.2	94.6	96.3	92.4	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値 実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	認知したいじめの改善率 (改善件数/いじめ認知件数)	100 (109/109)	100 87.9 (609/693)	100 89.5 (1149/1284)	100 89.6 (1235/1378)	100 ※78.9 (1189/1507)	100
	いじめを考える児童生徒委員会の実施回数	4	4	4	4	4	4

※ 認知したいじめについては「解消している」の判断に3か月程度の経過観察を必要としたことから、1～3月に認知した事案に関しては、7月の調査では「解消している」とは扱わないこととした。

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	「いじめを考える児童生徒委員会」や「いじめ問題対策連絡協議会」など、いじめ対策事業に継続的に取り組み、目標値をおおむね達成している。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	子どもたち主体の活動に力を入れるとともに、心理の専門家による助言を生かした支援を導入する等、取組の充実につながっている。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	B	心理的事実と客観的事実の違いに着目した支援のあり方を徹底するため、「いじめ問題対策連絡協議会」等のあらゆる機会を活用して、市としての共通理解を図っていく。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>専門家等による相談・支援体制を充実させ、児童・生徒の抱える課題に対して、学校と関係機関、地域との連携・協働をより一層深化させたチーム支援体制の確立を目指していく。</p> <p>また、法的ないじめと社会通念上のいじめの違いを認識し、現状のいじめの認知方法に合わせた児童・生徒への適切な支援の仕方について、学校、保護者、地域の理解を深めていく必要がある。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		いじめ事案への気づきと早期の関わりが、認知件数の増加の形で表れている。また、認知したいじめに対して学校内での組織的支援の意識は高まってきている。さらに、学校と専門職、関係機関等との連携を進め、いじめ問題へのチーム支援体制の充実を図ることで改善率を高めていく。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>「いじめを考える児童生徒委員会」の継続的な開催により、子どもが主体となっていじめ根絶に向けた意識や気運を高めたり、友人関係を互に見つめ直したりする取組は評価できる。また、専門家を学校に派遣し、いじめ事例に対する指導・助言によって、教職員のチーム支援体制の充実や学校の雰囲気づくりに寄与している点も評価したい。</p> <p>今後は、「認知できないいじめ」をなくす努力も継続していくことを期待する。</p>		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>いじめを考える児童生徒委員会に出席している子どもたちは、とても意識が高い。今後も主体的に考える活動を推進するとともに、「はだのっ子生活スタンダード」の周知を図ってほしい。</p> <p>いじめをなくしていくためには、子どもたち自身が意識を高めていくことが何よりも大切であり、大人が教え込むのではなく、子どもたちが自ら考えるきっかけづくりや主体的に活動できる環境設定を行う必要がある。</p> <p>いじめを認知したことを、学校で相談できる人間関係が重要であり、さらに学校と専門職、関係機関等との連携を進め、チームとしての支援体制の充実にも今後引き続き努めてほしい。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課 教育研究所
教育 プランの 位置付け	1-2-3

No.3	施策名	不登校対策の推進
施策の概要	目的	「学校に行きたくても行けない」「学校を休みがちになってしまった」児童生徒やその保護者に対し、関係機関等が連携して、未然防止、早期発見、早期対応などそれぞれの場面において適切な支援体制を構築する。また、こうした児童生徒は増加する傾向にあり、その原因や背景は様々で複雑化していることから、新たな学びの場の提供も含めた支援体制の充実を図る。
	達成すべき目標	不登校児童生徒数の出現率の減少 令和元年度比マイナス5%

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項

- ・児童生徒の支援に当たっては初期対応が重要となるため、教育相談コーディネーターを中心として学校全体でのチーム支援が可能となるよう担当指導主事が各校と協働的に取り組むことで、教育委員会と学校が緊密な情報連携を行う体制の構築を図り、心理の専門家や教育支援教室等を有効に活用した支援となるよう努めた。
- ・教育支援教室においては、毎週金曜日に、臨床心理士や学校心理士などの資格をもつ専門相談員の参加による連絡会を定期的に開催し、通室する児童生徒一人ひとりの課題について専任教諭と支援員が理解を深め、支援の具体的方策に生かすとともに、教室運営上の諸課題について、指導主事も含めて連絡調整を行った。
- ・教育支援教室において、個別対応が必要な児童生徒の支援のため、教室の環境整備を図るとともに、大学生ボランティアなどの活用で人員を増やすことで、人的支援の充実を図った。
- ・訪問型個別支援教室においては、平成30年度より従来の自立支援教室事業を拡充し、上幼稚園跡地に拠点を構え、室長を配置することで、訪問型支援の充実を図った。また、令和元年度より市独自にスクールソーシャルワーカーを配置したことにより、校内のケース会議等への出席や保護者との面談が随時可能となり、学校や関係機関と連携した家庭への支援が充実した。

【単位:千円】	予算事業名	09・01・03・084・020・001 教育支援教室事業費 09・01・03・084・060・001 訪問型個別支援事業費					
	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	9,837	10,782	10,055	10,765	18,775	18,623
	決算額	9,543	10,228	9,862	10,364	16,609	
	執行率(%)	97.0	94.9	98.1	96.3	88.5	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値 実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	国の長期欠席調査による不登校児童生徒数の出現率(不登校児童生徒数)	1.61 (147)	1.53	1.35	1.42	1.44	
			1.42 (176)	1.50 (183)	1.52 (183)	公表前	
	県の長期欠席調査による不登校児童生徒の出現率(12月時点の不登校出現率)	-	-	-	-	-	1.55
			-	-	-	1.63 (196)	
	県の長期欠席調査による30日以上欠席の児童生徒の出現率(30日以上長欠者)	1.94 (244)	1.61	1.98	1.87	2.02	-
			2.08 (258)	1.97 (240)	2.14 (258)	-	-
	30日以上欠席の児童生徒に対して学校内外での支援が行われている割合※1(学校全体による支援数)	56.8 (121)	59.6	61	74	70	-
58.1 (150)			70.42 (169)	65 (169)	-	-	
不登校児童生徒に対して、学校内外での支援が行われている割合(当該の児童生徒数)	-	-	-	-	-	74	
		-	-	-	70.4 (138)		

※1 平成30年度から調査項目の変更があり、30年度の数値は、該当生徒に対して、「学校内外で支援が行われた生徒数」です。29年度までの数値は、該当生徒に対して、「チームとして支援した生徒数」となります。
 ※2 「不登校」：何らかの心理的・情緒的・社会的要因等により登校しない(できない)と学校が判断した児童生徒(「病氣」等を除く)
 ※3 調査項目の変更により令和元年度から「30日以上長欠者数」の項目が削除されました。
 ※4 国の長欠調査の公表が秋となるため、直近のデータとして、県の長欠調査による数値を掲載。

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	不登校児童生徒に対して学校内外での支援が行われた人数については目標に近い割合となっているが、県の長期欠席調査による不登校児童生徒の出現率が増加したため。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	教育支援教室や訪問型個別支援教室の効果的な運用により、令和元年度は在籍校への部分登校可能につながった児童生徒が増加しているため。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	支援を必要とする児童生徒の増加や個に応じた柔軟な支援を行うため、保護者への支援も含めた支援員の確保等が必要である。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等		個別の支援を必要とする児童生徒の要因は複雑化しており、福祉的な支援を行うスクールソーシャルワーカーや臨床心理士等の専門家を効果的に運用することで、より丁寧な支援体制の構築を図ることが必要だと考えている。今後も教育支援教室「いずみ」や訪問型個別支援教室「つばさ」といった支援体制を整備し、新たな学びの場の保証と、個に応じた支援が行われるように体制を整備していきたい。		
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C			
	評価の理由			
	現在文部科学省の見解では、「不登校はどの児童生徒にも起こり得ることとして捉えることが必要であり、問題行動として判断してはならない。」とされており、個別の支援を必要とする児童生徒に寄り添い、共感的理解と児童の現状をしっかりと受容する姿勢が重要となるため、単に不登校対策としてとらえるのではなく、子どもたちの自己肯定感を高め、自信を持ち登校できる学校づくりがより一層必要と考えている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	不登校の要因が複雑化している中、教育支援教室「いずみ」や訪問型個別支援教室「つばさ」との連携・協力による対応や大学生ボランティアの活用、スクールソーシャルワーカーの配置など、着実に対策環境を整えていることは評価できる。また、在籍校への部分登校につながったケースの増加は、大きな成果として捉えることができる。 しかし、不登校児童生徒の出現率も上昇していることから、地域や保護者も含めたさらなる人的支援の拡大充実が望まれる。今後は、個に応じた個別カリキュラムの作成など、よりきめ細やかな支援を期待する。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	不登校はどの子どもにも起こりうることであり、「いずみ」や「つばさ」の支援体制を整備することで、個別の支援を必要とする児童生徒の居場所となり、学校・家庭・関係機関と連携した支援が提供できるよう引き続き取組を進めてほしい。 学生ボランティアの活用は児童生徒にとっても支援する大学生にとっても意味のある取組と考えているので、継続的で効果的な活用となるよう大学との連携強化を図ってほしい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	学校教育課 教育総務課 教育指導課 教育研究所
------	----------------------------------

No.4	施策名	学校におけるICT化の推進					教育 プランの 位置付け	1-5-1 3-4-2
施策の概要	目的	ICTの進展やグローバル化に対応できる児童生徒を育成するため、子どもたちがICTを活用し、わくわくしながら興味をもって豊かに学び、理解を深めることができるよう、環境整備を推進する。また、校務データの一元化により、教職員の公務を効率化するとともに、データを活用したきめ細やかな指導の充実を図る。						
	達成すべき目標	普通教室のパソコン使用環境を整備する。 教育ICTの更なる推進のため、ICT支援員による教職員への支援の充実を図る。						
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		<p>学力向上や教職員の労務改善に資するソフト及びアプリ等の導入について学校現場と協議しながら推進を図った。</p> <p>小学校の特別支援学級に専用のタブレット端末(73台)を新たに配置するとともに、国の「GIGAスクール構想」を踏まえた学校教育の情報化を推進するため、基本方針を策定し、校内通信ネットワークや児童・生徒1人1台のICT端末整備の準備を進めた。</p> <p>新学習指導要領では小学校のプログラミング教育が必修化され、ICT機器を活用する機会が増えることを踏まえ、ICT支援員によるICT機器の取扱方法の説明や有効なソフトのインストール等を行うことで、学校現場のサポートに努めた。</p>						
施策の経費	予算事業名	09・02・01・085・030・001 小学校ICT環境整備事業費(学校教育課) 09・03・01・089・030・001 中学校ICT環境整備事業費(学校教育課) 09・02・04・088・010・001 小学校施設改修事業費(教育総務課) 09・03・04・088・010・001 中学校施設改修事業費(教育総務課) 09・01・03・084・050・001 学校ICT推進事業費(教育研究所)						
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
	予算額	85,125	87,194	155,696	146,250	740,352	155,406	
	決算額	78,073	82,424	137,204	130,802	141,173		
	執行率(%)	91.7	94.5	88.1	89.4	19.1		
施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	
	普通教室等で使用できるパソコンの整備(タブレット端末整備台数)	23	72	564	564	942	-	
	児童・生徒1人1台のICT端末の整備 ※GIGAスクール構想を踏まえ、目標値の変更	-	-	-	-	-	11,995	
	ICT支援員による学校支援(学校訪問回数)	30	90	45	45	45	45	
109			87	86	108			

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	A	普通教室におけるタブレット端末の整備台数、ICT支援員の学校訪問回数ともに、目標値を上回り、ICT教育を推進することができた。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	A	学校におけるICTの活用推進のためICT支援員が学校へ108回訪問するなど、ICT支援員による適切な支援を行った。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	国の「GIGAスクール構想」を踏まえた児童生徒1人1台のICT端末を整備を推進するため、施策の目標を変更する必要がある。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	校内通信ネットワーク環境と児童生徒1人1台のICT端末整備を行うとともに、ICT環境を活用した「学びの充実」を実現するため、学校と連携しながらICT端末及び学習用アプリ等の活用方法に関する検討を進める。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	A	評価の理由		
	普通教室におけるタブレット端末の整備台数、ICT支援員の学校訪問回数とも目標値を上回り、ICT教育を推進することができた。 また、国の「GIGAスクール構想」を踏まえた「教育の情報化」に関する基本方針を策定し、ICT環境整備の更なる推進に努めた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	A	普通教室へのタブレット端末の整備とICT支援員の学校訪問のいずれの目標値も達成できたことは評価できる。 タブレットの使用頻度は高く、授業を展開するうえで有効なツールになっていることから、主体的に学習する児童・生徒や教員の授業展開の工夫改善が促され、魅力ある効果的な教育施策となっていくことを期待する。 新たに子ども1人1台のICT端末の整備目標が追加されたが、授業力向上のための労務負担増加とならないよう、ソフト面の充実や支援員の有効的な活用を今後も期待し、教育事務の効率化を図ってもらいたい。タブレット端末の整備に当たっては、個人用としていつでもどこでも子ども達が自由に使えるように学習環境を整えてもらいたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	A	総合計画や教育プランに掲げた目標を上回る端末整備を実現し、国が令和元年12月に方針決定した「GIGAスクール構想」にも迅速に対応するなど、ICT環境の整備を着実に進めている点を高く評価する。 新たな学習指導要領では、情報活用能力の育成やICTを活用した学習活動の充実が明記され、小学校ではプログラミング教育が必修化されたことなども踏まえ、「学びの充実」を実現するためのICTの活用方法について、引き続き学校現場と連携しながら検討を進めてほしい。 また、ICT教育の推進が教職員への過重な負担につながらないよう、支援体制の拡充等に努めてほしい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名

教育総務課

No.5	施策名	公立幼稚園の配置の見直し						教育 プランの 位置付け	1-6-2
施策の概要		<p>目的</p> <p>秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画に基づき、小学校への施設の一体化やこども園化により、公立幼稚園の配置を見直し、望ましい幼児教育のための環境整備を行う。</p> <p>また、幼児教育・保育の無償化の実施を受けて、保護者の施設選択に大きな影響が生じることが見込まれることから、財源や人材の縮充により、幼児教育・保育の充実を図り、持続可能な幼児教育・保育環境を整備していくため、新たな秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画を定める。</p>	<p>達成すべき目標</p> <p>小学校との施設一体化（2園・校）、こども園化（公私連携）（1園） 新たな秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画の策定</p>						
		<p>令和元年度事業内容及び工夫・改善事項</p> <p>・みなみがおか幼稚園については、平成31年4月1日から本市初の公私連携幼保連携型認定こども園に移行し、サンキッズ南が丘こどもえんとして開園した。市と運営法人の連携協力のもと円滑な移行に努めるとともに、中学校区で組織する子どもを育む懇談会への参画など、幼小中一貫教育の取組も継続しており、公私連携のモデルケースとして、順調なスタートをきることができた。</p> <p>・公立幼児教育・保育施設のあり方の検討については、保護者ニーズを把握するため、アンケートを実施するとともに、学識経験者や民間園関係者、保護者等で組織する秦野市幼児教育のあり方検討懇話会の設置や先進地である福井県への視察など、様々な立場・視点での幅広いご意見をいただきながら、検討を進めた。</p>							
施策の経費		予算事業名	09・01・02・083・010・001 事務局運営費						
		【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
		予算額	-	5,400	133	0	188	188	
		決算額	-	14,033	129	0	149		
		執行率(%)	-	259.9	97.0	-	79.3		
施策の目標		年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
		指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	
		小学校との施設の一体化(上幼稚園)	計画の策定	施設一体化	-	-	-	-	
				施設一体化	-	-	-	-	
		公私連携によるこども園化(みなみがおか幼稚園)	計画の策定	運営法人の募集	運営法人の決定	移行準備	開園	-	
				運営法人の募集	運営法人の決定	移行準備	開園	-	
小学校との施設の一体化(大根幼稚園)	計画の策定	-	方針決定	移転準備	-	-			
		-	方針決定(施設一体化)	施設一体化の保留	-	-			
公立幼児教育・保育施設のあり方の検討				論点整理	基本方針の策定	計画策定			
				論点整理	基本方針の策定				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	平成31年4月から公私連携幼保連携型認定こども園を開園した。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	A	内部検討会9回、外部検討懇話会3回の議論に加え、保護者アンケートや先進地視察による情報収集・分析に努めた。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	保育ニーズが増大傾向にあることを踏まえ、地域ごとの保育の需給バランスを捉え、公立幼稚園の配置の見直しをさらに進める必要がある。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	サンキッズ南が丘こどもえんについては、地域の一員として、引き続き子どもの育ちを見守っていただけるよう、より連携を深めていく。幼児教育・保育施設のあり方の検討については、今後の保護者ニーズの動向を捉えながら、教育・保育の質の確保・向上を念頭に、持続可能な幼児教育・保育環境を目指して、様々な御意見をいただきながら、計画策定を図っていく必要がある。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	B	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	評価の理由			
	幼児教育・保育施設のあり方の検討については、検討懇話会の意見をもとに、当初予定していなかった先進都市の視察を実施し、実効的な情報収集に努めるなど、充実した議論を重ね、令和2年4月に「公立幼児教育・保育施設のあり方」に関する基本方針を策定した。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	着実に計画を実施していること、また、情報収集や分析に努めたことは評価できる。 公立幼稚園の配置の見直しは、幼児教育・保育の無償化を受け、将来的な幼児教育を整備していくうえで、重要な施策である。見直しを進めるに当たっては、地域ごとの保育受給バランスを捉え、様々な立場・視点からの意見を踏まえ、公私連携という新たな試みによって得られる成果も生かしながら、秦野市全体の幼児教育環境を整えていくことを望む。また、新計画の進捗状況を保護者や地域住民等に周知していくことも必要である。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	サンキッズ南が丘こどもえんについて、公私が連携し旧みなみがおか幼稚園の良さを残しつつ、民間園として順調に運営されていることは評価できる。 また、公立幼稚園及びこども園の教育利用の園児数が減少傾向にある中、今後の公立施設のあり方について、方向性を定めていくことは重要である。 今後は、サンキッズ南が丘こどもえんを良い事例として、もっと民間の活力を使った幼児教育・保育施設の充実を図っていくとともに、秦野の幼児教育の質の向上に向けて、公私を問わず取り組んでいくことを期待したい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教職員課
教育プランの位置付け	なし

No.6	施策名	教職員の多忙化対策の実施
施策の概要	目的	教員の長時間勤務実態を踏まえ、平成30年3月に策定した「秦野市学校業務改善方針」に基づき、4つの業務改善パッケージ、28項目の改善方策を計画的(平成30年度～令和2年度)に取り組むことにより、教員が児童生徒と向き合う時間の確保とスキルアップとともに学校の組織力・マネジメント力の強化を図ることとしている。
	達成すべき目標	学校業務改善方針に掲げた28項目の具体的な改善方策における計画どおりの実施

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項

令和元年度は「学校業務改善推進事業」として、予算を確保し、スクールサポートスタッフを7月から順次各学校に配置するなど、教員の業務負担軽減を図るとともに、教員の在校等時間を客観的に把握するため、ICカードによる勤怠管理システムを6月から全校で導入したほか、学校業務改善提案制度を実施し、足元からの業務改善に取り組んだ。

この事業のほか、学校閉庁日(8月13日から15日)の設定、「学校徴収金会計処理基準」「学校要望等対応ハンドブック」の作成、文科省学校業務改善アドバイザーによる研修会を実施した。

施策の経費	予算事業名	09・01・02・083・160・001 学校業務改善推進事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	—	—	—	—	12,350	10,373
	決算額	—	—	—	—	7,535	
	執行率(%)	—	—	—	—	61.0	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	28項目の改善策の実施(取組)率	—	—	—	35%	50%	100%
		—	—	—	35.7%	75%	
	小学校における午後5時以降の在校時間が月45時間超教員の割合(年平均)	—	—	—		70%	40%
—		—	—		42.8%		
中学校における午後5時以降の在校時間が月45時間超教員の割合(年平均)	—	—	—		65%	50%	
	—	—	—		54.6%		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	学校業務改善事業に位置付けた3事業について初期目標どおり実施することができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	計画した事業に加えて、文科省の学校業務改善アドバイザーを招聘し、指導・助言等研修を実施した。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	学校業務改善については、方針を策定し、学校現場等と一体となって計画的に取組中のため。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	学校業務改善方針において、平成30年度から令和2年度の3年間を集中推進期間とし、積極的かつ重点的に学校業務の改善に取り組んできた。令和2年度がその最終年度に当たることから、取組状況を総括するとともに、教育プラン等の上位計画とも連動して次期取組について、企画・検討することとしている。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	学校業務改善方針に位置付けた28の取組項目すべてに着手し、取組を進めることができている。また、学校業務改善事業に位置付けた3事業において目標を達成することができた。引き続き、取組の充実と国、県の動きを踏まえた学校業務改善の推進に努めることにしている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	令和元年度から本格的に予算化したことに加え、働き方の見直しや業務に専念できる環境づくり、部活動軽減、支援体制の強化等の取組により、教員業務が軽減され、目標値を達成していることを評価する。また、取組の推進により、教職員の業務改善の意識に少しずつ変化が見られてきている。 今後は、さらに実質的な業務改善の推進を期待する一方、多忙化対策のための施策が、子どもへの指導・支援時間の減少や家庭内での仕事量の増加、休日出勤等への弊害、教頭等の新たな負担とならないよう、細心の注意を払いながら、進めていく必要がある。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	施策の目標に掲げている3つの指標全てにおいて、目標値をクリアしている状況にあり、教職員の多忙化対策が積極的かつ計画的に推進されていることが推察される。引き続き、学校及び教職員が置かれている状況をあらゆる機会を通じて、保護者や地域住民にお知らせし、御理解をいただきながら、教育委員会と学校が一体となって、意識を共有し合い、学校業務改善の推進に努めてもらいたい。 学校の働き方改革は、教職員にとって、これまでの生活の見直し・改善にもつながり、今般のコロナウイルス対策でこれまでの日常が大きく変わろうとしている中、教職員の皆さんには、大変な御苦勞があると思うが、ピンチをチャンスに変えるという発想で、共に教育の新たな進化に向けて、全力を傾注してもらいたい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育指導課
教育プランの位置付け	2-1-1

No.7	施策名	学校支援づくりの推進
施策の概要	目的	学校運営全般にわたり、地域の方の経験を生かした教育活動等への支援など、地域や保護者と一体となった学校づくりを進め、子どもの豊かな成長につなげる。
	達成すべき目標	コミュニティ・スクール等の取組による新たな学校づくりの推進状況

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項

- ・地域と共にある学校づくりを推進するため、新たに上小学校と南が丘小中学校に学校運営協議会を設置し、地域への啓発や学校支援体制づくりに取り組み、特に南が丘小中学校については、市内で初めて中学校区で学校運営協議会を設置する等、新たな取組を推進した。
- ・文部科学省のコンサルタント事業を活用し、研究推進校となる広畑小学校や東小中学校を会場にCSマイスター等の講師として研修会等を実施し、コミュニティ・スクールの全校設置に向け、研究実践校以外の学校にも参加を呼びかけ、本市の実情に合わせた「地域と共にある学校づくりのあり方」について研究を行い、今後の施策の方針を定めた。

施策の経費	予算事業名	09・01・02・083・150・001 コミュニティ・スクール研究実践事業					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	2,232	2,830	3,907	3,964	3,123	2,417
	決算額	263	1,428	2,928	3,361	2,462	—
	執行率(%)	11.8	50.5	74.9	84.8	78.8	—

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	コミュニティ・スクール学校運営協議会設置校数	0	1	1	2	3	3
			1	1	2	3	
	コミュニティ・スクール研究実践校の指定	1	1	2	2	4	9
		1	2	3	4		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	当初の計画どおり、新たに3校をコミュニティ・スクールとして指定するとともに、4校を研究校に指定するなど推進に努めた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	A	A	市としての今後の方向性を定めるとともに、文部科学省事業を活用した研修会を実施し、研究校以外の学校の管理職にも参加を呼びかけ啓発に努めた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	B	各校の実情に応じたコミュニティ・スクールの円滑な設置に向けて、プランの提示やアドバイス等のバックアップ体制を整える必要がある。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等		<p>新たな学校づくりの推進に向けては、教職員の多忙化への懸念やコミュニティ・スクールの意義や成果が分かりにくい等の課題がある。多忙化への懸念については、学校運営協議会の運営を支援するディレクターの効果的な運用を進めるとともに、コミュニティ・スクール制度の意義や成果についても地域や学校への丁寧な説明や研修会の充実を図る必要がある。今後は、策定された方針に基づき義務教育学校の設置も視野に入れた中学校区ごとの学校運営協議会の設置や、既に同一中学校区において小中個別に設置された学校運営協議会のあり方についても地域の実情を踏まえながら検討していく必要がある。また、本市で平成17年度から展開してきた「子どもを育む懇談会」との関係について、地域学校協働本部としての位置付けや学校運営協議会との整合性を図りながら支援の充実に資するよう枠組みを整理し、市内で共有していく必要がある。</p>		
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
<p>学校運営協議会設置校並びに研究実践校について計画通り拡充を図ってきた。また、設置校では子どもの学びを支援する体制づくりや、地域力を生かした学校行事の実施についても熟議がなされ、子どもの豊かな成長に向けて地域・保護者と学校が協働した取組が進んでいる。</p>				
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>計画通りに体制を整えることができた点は評価できる。コミュニティ・スクールの拡充に当たっては、中学校区ごとに設置された「子どもを育む懇談会」との枠組みをよく整理するとともに、幼小中一貫教育研究との連携・相違を検証することによって、地域の特色を生かした地域密着型の学校づくりを構築していく必要がある。</p> <p>また、教員の多忙化対策に配慮するとともに、これまでの取組を地域や保護者によく周知することで理解を深め、共通認識を持ちながら、研究実践校での取組で得られた成果を展開していくことを望む。</p>		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>学校運営協議会制度は、地域と学校をつなぐ非常に有効な制度であるとする。今後の拡充に向けて、教職員の負担軽減への配慮をしたうえで、既存の子どもを育む懇談会との事業趣旨の整理を進める必要がある。</p> <p>地域ごとに状況が異なるので、地域や保護者と一体となった学校づくりを進めるために、保護者や地域への更なる周知を図ってほしい。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課
教育 プランの 位置付け	2-2-1

No.8	施策名	支援教育の推進					
施策の概要	目的	個別に支援を必要とする児童生徒は年々増加する傾向にあり、一人ひとりの教育的ニーズに対応できる基礎的な環境整備が必要とされているため、児童生徒の様々な教育課題を的確に把握し、個に応じた適切な支援をより充実させる。					
	達成すべき目標	特別支援学級介助員等人的支援の確保及び資質向上					
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童生徒数の増加に伴い、学習活動の補助や安全確保、生活介助等についての支援ニーズも高まっており、前年度よりも1名多い54名の介助員を12小学校3中学校に配置し、また、介助員としての資質向上のため、東海大学講師の高木俊樹氏による「介助員に期待すること」、また作業療法士酒徳均氏による「身体を意識できるような力を育てる」をテーマとした研修を行った。 ・東海大学、上智短期大学との連携により15名の大学生（メンタルフレンド）を2小学校3中学校に派遣した。 					
施策の経費	予算事業名	09・02・03・087・040・001 特別支援学級介助員経費 09・02・03・083・100・001 学習支援事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	46,268	48,089	53,285	58,532	59,593	60,461
	決算額	44,750	46,742	51,460	56,147	56,397	
	執行率(%)	96.7	97.2	96.6	95.9	94.6	
施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	特別支援学級介助員の派遣	43	46	49	52	54	54
			45	49	53	54	
	メンタルフレンド等の派遣数(延べ数)	375	100	100	150	150	75
75			165	154	82		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	D	D	現在のメンタルフレンド派遣制度では前期課程で支援を終える学生が多く、2学期以降の継続支援が難しい。現役の学生だけでなく、幅広く支援者を募る形にしていく必要がある。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	資質向上を目的とした研修では、事後アンケートにて高い評価を得ており、研修機会の増加要望も多い。今後はよりニーズに合った講師の依頼が課題である。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	支援ニーズの高まり及び支援内容の多様化に対応するため元介助員や教員などのボランティアを募ることも検討していく必要がある。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	児童生徒数が減少する中、合理的配慮を必要とする児童生徒数は増加していることから、学校現場では一人でも多くの人的支援を希望している。しかし、厳しい財政状況の中、量から質への転換が迫られており、ボランティアの拡充や介助員一人ひとりがスキルを向上させ、より良い支援につなげていくことが強く求められているため、更なる工夫改善が必要である。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C	評価の理由		
	支援を必要とする児童生徒数は増加しており、引き続き大学と連携し学生ボランティアの派遣を進める一方、メンタルフレンド事業そのものを見直し、より幅広くボランティアを募ることで一人ひとりの支援ニーズに細やかに対応できるようにしていくことが求められる。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>介助員の増員や研修の実施など、支援教育の資質向上に努めたことは評価できる。</p> <p>支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にある中、幅広く支援者を募るなど支援体制の強化と、教員一人ひとりの更なるスキルアップが必要である。</p> <p>また、メンタルフレンド派遣事業は、学校現場と学生の双方にとって有効であることから、当事業の魅力を認知してもらう取組を進めるとともに、個性差に応じた対応がとれるよう適切な事前指導を行うことにより、事業の継続を図る必要がある。</p>		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>特別な支援の必要な児童生徒が増加傾向にある中で、介助員のニーズは高まっており、支援ニーズに応じた適切な配置を計画的にしていくことは重要である。また、支援の質も求められるため、研修会を実施したことは評価できる。引き続き、必要な支援が確実に提供される環境づくりに努めてほしい。</p> <p>メンタルフレンド派遣事業については、児童生徒に近い存在である学生の支援の有効性を踏まえ、人材の確保に向けて、大学側の理解と協力が得られるよう継続して働きかけていく必要がある。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-1-1

No.9	施策名	西中学校体育館等複合施設の整備															
施策の概要	目的	老朽化した学校体育館等の建て替えを基本に、学校を中心とした地域コミュニティの拠点や地域防災等の機能を有する多機能型体育館を整備し、学校教育環境の向上を図る。															
	達成すべき目標	西中学校体育館等（多機能型体育館）の完成															
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>平成30年に行った実施設計に基づき、多機能型体育館建設の工事請負契約を締結し建設工事に着手した。</p> <p>【工事請負契約】</p> <table border="1"> <tr> <td>工種</td> <td>契約金額（税込み）</td> <td>工事内容</td> </tr> <tr> <td>・建築工事</td> <td>1,006,044,900円</td> <td>体育館の躯体、内外装等の建築工事</td> </tr> <tr> <td>・電気設備工事</td> <td>104,500,000円</td> <td>幹線動力設備、電灯設備等の工事</td> </tr> <tr> <td>・機械設備工事</td> <td>79,549,093円</td> <td>空調設備、給排水衛生設備等の工事</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,190,093,993円</td> <td></td> </tr> </table> <p>なお、令和2年度執行予定の旧体育館の解体工事費などについて、国の補正予算を活用することで、新たな財源を確保することができた。</p>		工種	契約金額（税込み）	工事内容	・建築工事	1,006,044,900円	体育館の躯体、内外装等の建築工事	・電気設備工事	104,500,000円	幹線動力設備、電灯設備等の工事	・機械設備工事	79,549,093円	空調設備、給排水衛生設備等の工事	合計	1,190,093,993円	
工種	契約金額（税込み）	工事内容															
・建築工事	1,006,044,900円	体育館の躯体、内外装等の建築工事															
・電気設備工事	104,500,000円	幹線動力設備、電灯設備等の工事															
・機械設備工事	79,549,093円	空調設備、給排水衛生設備等の工事															
合計	1,190,093,993円																

施策の経費	予算事業名	09・03・04・092・030・001 西中学校体育館等施設整備事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	4,337	9,000	15,352	47,110	716,587	1,113,656
	決算額	0	4,182	8,314	28,625	226,377	
	執行率(%)	0.0	46.5	54.2	60.8	31.6	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	西中学校体育館等（多機能型体育館）の完成	—	整備構想の策定	基本設計の実施	実施設計の実施	建設工事着手	完成
		—	整備構想の策定委託	基本設計の実施	実施設計の実施	建設工事着手	

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	工事請負契約を締結し、建設工事に着手した。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	学校、関係各課及び工事施工業者と連絡調整を図り、学校運営に支障をきたすことなく工事を施工できている。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	令和2年9月の供用開始に向け計画どおりに進んでいる。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	多機能型体育館の供用開始後は、引き続き、旧体育館や西公民館の解体工事及び周辺道路の歩道設置工事など南側敷地の関連工事を行い、令和3年度の事業完了を目指す。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	実施計画に基づき、学校体育館と生涯学習機能及び地域防災機能を備えた多機能型体育館の建設工事の着手・施工について、計画どおり進めることができた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	遅滞なく整備されていることから評価は妥当である。 これからも関係課並びに地域、学校関係者の方々と十分な話し合いを重ね、セキュリティなどの管理運営面に配慮しながら、計画通りに進めていってほしい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	完成に向け、計画どおり進んでいることは評価できる。 今後の運用に当たっては、セキュリティ面に配慮するとともに、複合化の長所を有効活用し、様々な取組を行うことで双方にとって良かったと思える施設となることを期待する。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-2-1

No.10	施策名	学校施設長寿命化の推進
施策の概要	目的	計画的な学校施設の改修等を行うことによって、学校施設の長寿命化を図り、快適で安全・安心な学習環境を確保する。
	達成すべき目標	計画的な学校施設改修事業を実施する。
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		<p>【小学校】3件の工事を実施 受水槽更新工事1件(南小(平成30年度繰越事業))・公共下水道接続工事(北小)・電話交換主装置更新工事1件(南小外10校)</p> <p>【中学校】4件の工事を実施 受水槽更新工事2件(南中、西中(平成30年度繰越事業))・エレベーター機械器具改修工事1件(本町中)・プレイルーム屋上防水全面改修工事1件(本町中)</p> <p>【幼稚園】2件の工事を実施 外壁塗装剥落防止工事1件(西幼(平成30年度繰越事業))・公共下水道接続工事1件(北幼)</p> <p>なお、令和2年度実施予定の受水槽更新工事(南が丘小、鶴巻小、東中、北中、大根中、南が丘中及び渋沢中)、外壁塗装剥落防止工事(東中)及びグラウンド整備工事(南小)について、国の補正予算等を活用し、予算の前倒し計上(繰越明許)を行った。</p>

施策の経費	予算事業名	09・02・04・088・010・001 小学校施設改修事業費 09・03・04・092・010・001 中学校施設改修事業費 09・04・03・095・010・001 幼稚園施設改修事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度※1	29年度	30年度※2	令和元年度※3	2年度※4
	予算額	235,547	132,490	173,053	192,237	473,720 (169,120)	349,428 (21,328)
	決算額	160,368	110,022	140,942	63,118 (16,352)	131,920	
	執行率(%)	68.1	83.0	81.4	32.8	27.8	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値※2	実績値	実績値
	工事件数	19件	8件	6件	8件	9件	10件
			12件	9件	10件 (23件)	9件	

※1 H28予算額132,490千円のうち540千円、決算額110,022千円のうち9,853千円及び工事件数12件のうち3件は、施策No.5の公立幼稚園の配置見直しにかかる経費。(再掲)

※2 ()内数値は、危険ブロック塀等撤去工事に係る決算額及び件数

※3 ()内の金額は、翌年度(令和2年度)繰越明許費を除いた金額

※4 ()内の金額は、前年度(令和元年度)繰越明許費を除いた金額

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	学校施設の計画的な改修工事を実施することができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	受水槽更新工事等により安全安心な教育環境の整備を図ることができた。 また、国の補正予算等を活用することで、令和2年度工事9件の財源を有利な条件で確保することができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	引き続き、効果的な補助事業等の活用による財源確保に努めながら、計画的に学校施設の改修を進めていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	今後も計画的な施設改修を進めていくため、令和2年度の策定が求められている個別施設計画やこれまで研究を進めてきた学校施設一体化の方針を策定するとともに、国庫補助制度の改正内容を踏まえた改修計画を検討していく。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	当初計画どおり学校施設の改修工事を実施することができた。また、国の国庫補助事業の制度（採択方針）を有効に活用することで、後年度工事の前倒し及び有利な条件での財源を確保することができた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>厳しい財政事情の中で国庫補助事業を有効活用し、市の財政負担の軽減を図りながら、快適で安全・安心な施設整備に努めたことは評価できる。</p> <p>施設の老朽化が進む中、台風などの災害対策も考慮しながら、引き続き計画的な学校施設の整備に取り組んでもらいたい。</p>		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	A	<p>国の動向を踏まえ、後年の工事を前倒しし、財源を確保できたことは評価できる。新型コロナウイルスを例にとっても、不安定な世の中であるため、出来るときに進めておくことが重要である。</p> <p>また、全国各地で自然災害が多発し、予想外の被害も発生していることから、建物だけでなく、樹木やフェンスなどの周辺環境の点検・整備もしっかり行う必要がある。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-2-3

No.11	施策名	教育施設の一体的整備の研究
施策の概要	目的	今後の少子化の進展による学校規模の縮小や施設の老朽化を見据え、ハード・ソフトの両面から研究を行い、多様な学習活動に対応した機能的な学校施設等一体的整備の可能性を探る。
	達成すべき目標	教育施設の一体的整備に向けた方向付けを行う。
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		今後の少子化に伴う児童、生徒数の将来推計に基づく適正クラス数を基本に、学校施設の耐用年数、老朽化及び費用平準化の視点から施設集約化の時期等の研究を進め、施設の一体化、集約化プランのシミュレーションを実施し、施設一体化による費用等の削減効果の考察を行った。

施策の経費	予算事業名	09・01・02・083・010・004 学校施設等一体化研究事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	—	224	140	70	56	47
	決算額	—	0	112	0	0	
	執行率(%)	—	0.0	80.0	0.0	0.0	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	学校施設等の一体的整備について計画策定	—	情報収集 論点整理	情報収集 論点整理	素案の作成	素案の作成	計画策定
			情報収集	論点整理	目標の適正化の 把握に関する取組	一体化・集約化 プランの考案	

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	D	D	素案作成に至らず、一体化・集約化プランの考案に留まった。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	C	C	一体化・集約化のシミュレーションによる考察の進め方に効率性を欠く部分があった。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	施設一体化の効果及び義務教育学校の有効性の検討を深め、教育施設の一体的整備の研究成果を取りまとめる必要がある。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	公共施設再配置計画等との整合性を図りながら施設一体的整備の研究成果を取りまとめ、次期「総合計画」及び「教育振興基本計画」への位置付けを行う。 また、集約化案の公表方法や時期について、保護者や地域住民の意見を踏まえながら慎重に進めていく必要がある。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	D			
	評価の理由 当初計画の素案作成に至らなかった。今後は、適正な学級規模や教育水準の改善・向上の視点も含めた議論とするため、検討体制を部内関係課に拡大し、計画策定に向けて、義務教育学校も視野に入れた具体的な検討を迅速に進める必要がある。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	D	<p>少子化の進展を視野に入れて、教育施設の縮小化や老朽化を見据えた整備には共感が持てるが、施策に大きな遅れが生じており、素案が見えない中では方向性も考えにくい。</p> <p>単に経済面や効率面から施設を一体的に整備するのではなく、児童生徒の豊かな育ちを見据えた多様な学習ができる教育施設や教育環境の構築を視野に入れ、機能的で効果的な学校施設の計画策定として進めてもらいたい。</p> <p>また、それぞれの学校には歴史があり、住民の想いもあるため、集約化プランの時点で、市民には計画を公表し、意見を募ることが大切である。</p> <p>一方で、学校の統廃合の前に、学校規模・学級数の平準化を図るための学区の再編成のほうが先のように思う。</p>		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	C	<p>目標値に対する実績は遅れているが、難しい問題であるだけに、早ければ良いということではなく、遅れが生じていることに致し方ない面もあると感じる。そのような中で、令和元年度は、シミュレーションを実施し、今後の方向性を探ることができた点は良かった。</p> <p>小学校に英語が取り入れられるなど、学習内容の線引きが変わってきている中で、義務教育学校という選択肢も理解できるものである。</p> <p>しかしながら、この問題を進めていくためには、施設の問題だけでなく、教育的効果と合わせて進めていくことが重要であり、地域住民の理解を得ながら進めていく必要がある。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名

教育総務課

No.12	施策名	快適で安全・安心な学習環境の推進					教育プランの位置付け	なし
施策の概要	目的	子どもたちが安全に安心して学ぶことができる快適な学習環境づくりを推進する。						
	達成すべき目標	小・中学校トイレの洋式化率100%を目指す。 幼稚園保育室の空調設備設置率100%を目指す。						
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		<p>平成29年度から令和2年度までの4か年計画で実施している「トイレ快適化第二次整備事業」の3年目として、和式便器を洋式に交換する洋式化工事に加え、タイル張りのトイレの床等を衛生的な樹脂製に張り替え、併せて便器の洋式化を行うトイレ快適化工事を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ快適化工事 小学校3校(東小、西小、堀川小)、中学校3校(東中、大根中、西中) ・トイレ洋式化工事 小学校2校(東小、堀川小) ※中学校は令和元年度未実施 <p>なお、令和2年度実施予定の小学校トイレ快適化工事(北小、上小、南が丘小)及び中学校トイレ快適化工事(南中、南が丘中)について、国の補正予算等を活用し、予算の前倒し計上(繰越明許)を行った。</p>						
施策の経費	予算事業名	09・02・04・088・020・001 小学校トイレ快適化第二次整備事業費 09・03・04・092・020・001 中学校トイレ快適化第二次整備事業費						
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度※1	2年度※2	
	予算額	—	—	66,085	68,928	689,645 (279,739)	447,976 (38,070)	
	決算額	—	—	66,069	59,808	251,771		
	執行率(%)	—	—	100.0	86.8	36.5		
施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値※3	
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	
	トイレ洋式化工事件数			8校	9校	2校	—	
	トイレ快適化工事件数			—	—	6校	5校	
幼稚園空調設備設置台数			19台	18台	—	—		
			20台	15台	—	—		

※1 ()内の金額は、翌年度(令和2年度)繰越明許費を除いた金額

※2 ()内の金額は、前年度(令和元年度)繰越明許費を除いた金額

※3 令和2年度に、小学校2校(北小、南が丘小)及び中学校3校(南中、東中、大根中)において トイレ洋式化工事を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い執行停止とした。

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	快適化工事（小学校3校、中学校3校）及び洋式化工事（小学校2校）を実施したが、中学校2校の洋式化工事の子算措置ができず、先送りとなった。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	国の補正予算等を活用することにより、令和2年度実施予定の工事（5校）の財源を有利な条件で確保することができた。 また、節水型の洋式便器に改修することにより光熱水費の削減に努めた。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	令和3年度以降に先送りとなった洋式化工事について、早期実現を図る必要がある。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、令和2年度実施予定のトイレ洋式化工事を執行停止としたため、財政部門と協議し、令和3年度の事業完了に努める。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C			
	評価の理由 国庫補助事業を活用し実施している快適化工事は順調だが、新型コロナウイルス感染症対策の影響等により、洋式化工事は令和元年度に続き、2年度も先送りとなっている。 引き続き、小・中学校トイレの洋式化率100%を目指し、事業の推進を図る。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	事業が着実に実施されていることは、子ども達が快適に安心して生活できる環境づくりを推進していると評価する。 新型コロナウイルス対策の影響によるトイレ洋式化事業の遅れは、予期せぬ事情なので仕方ないとする。今後も国庫補助を効果的に活用するなど工夫していく中で、修繕要望を精査し、計画的な執行に努めていただきたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	C	トイレの洋式化・快適化に当たっては、節水型に切り替えるなど、環境面と財政面の双方に配慮しながら進めていることは評価できる。 しかし、洋式化工事については、令和元年度に続き、新型コロナウイルスの影響によるやむを得ない事情ではあるが、令和2年度の工事も先送りになっていることから、来年度以降、着実に推進できるよう努めていただきたい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	学校教育課
教育プランの位置付け	なし

No.13	施策名	中学校完全給食の実施
施策の概要	目的	未来を担う子供たちの心身ともに健全な育成のため、安全・安心でおいしい中学校完全給食を提供する。また、完全給食の実施により保護者の負担を軽減するとともに、学校給食事業を通じた食育の推進や、地産地消等の地域の振興を図る。
	達成すべき目標	令和3年12月から、全ての中学校で完全給食を開始する。

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>民間企業の技術力と創意工夫を生かした「公民連携方式」により、食育や地産地消の推進に資する給食調理施設を整備・運営するために最適な受注者を選定した。</p> <p>なお、事業用地の基礎調査等は、受注業者と連携したことで、短期間で効率的に実施することができ、事業費の削減にもつなげることができた。</p> <p>また食育や地産地消を推進するため、秦野市PTA連絡協議会との共催による「保護者向け栄養献立講習」を開催するとともに、関係団体と共に地場産物の活用方法に関する検討を進めた。</p>
--------------------	--

施策の経費	予算事業名	09・03・02・090・020・003 中学校完全給食推進会議事業費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	—	—	—	14,097	28,079	32,012
	決算額	—	—	—	9,771	8,918	
	執行率(%)	—	—	—	69.3%	31.8%	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	中学校給食基本方針の策定	—	—	—	基本方針の策定	—	—
		—	—	—	基本方針の策定	—	—
	中学校給食基本計画の策定(提供方式や施設整備等、基本的事項の決定)	—	—	先進地調査	現況調査の実施 基本計画の策定	—	—
		—	—	先進地の視察を実施	現況調査の実施 基本計画の策定	—	—
	給食調理施設の整備	—	—	—	提供方式の決定	受注者の決定 施設整備の開始	施設整備の推進
		—	—	—	提供方式の決定	受注者の決定 施設整備の開始	
	給食配膳施設の整備	—	—	—	現地調査の実施 整備方針の決定	第一期実施設計	第一期建設工事 第二期実施設計
—		—	—	現地調査の実施 整備方針の決定	第一期実施設計		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	食育及び地産地消に資する施設（学校給食センター）の機能等プロポーザルの要件とし、実施方針等を実現するために最適な受注者を選定することができた。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	食育活動では、秦野市PTA連絡協議会と共に「栄養献立講習」を開催した。また、地産地消の推進について、関係団体等との意見交換等を行った。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	安全・安心でおいしく、食育や地産地消に資する学校給食を実現するため、引き続き学校、保護者、受注者及び関係団体と連携しながら取組を進める。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	安全・安心でおいしい給食を確実に提供できるよう、配送・配膳、食材調達、衛生管理、食物アレルギー対応等も含めた運営方法（システム）を確立する。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	実施方針の公表や企業向けサウンディング（個別対話）の実施等を通じて、本市が目指す施設整備や運営に最適な受注者を選定した。また、センター方式で大きな課題となる「配送中の異物混入防止と温度管理」について、生徒や教職員の負担にも配慮した給食配送用コンテナ及び配送・配膳用エレベーターの整備を進めることができた。 これらの施設整備を踏まえ、保護者や関係団体と共に、食育及び地産地消の推進に向けた検討を進めた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	受注者の決定や配膳施設の整備など計画通り目標達成に向けて取り組んでいることを評価する。 今後は、本当の意味での「子どもたちのための給食」にするために、日課作成の課題、アレルギー対応、適正な配送・配膳の運営方法などソフト面にも配慮しつつ、秦野の特色を生かした生徒・保護者に喜ばれる中学校給食の実現に向けた取組を進めてほしい。 また、関係団体と共に地場産物の有効活用の検討を始めるなど、地産地消や地域振興の一助となるよう期待する。 なお、食品の廃棄ロスや生ごみ処理の問題を考慮し、環境に配慮した給食の提供に努めてほしい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	プロポーザルにより、本市が目指す施設整備や運営に最適な受注者の選定及び中学校へのコンテナ配送用エレベーターの設置業務など、中学校給食の実現に向けた取組が着実に実行されており、目標達成に向けた高い実績値になっている。 今後は、食育の推進や、地場農畜産物の活用を踏まえた中学生にふさわしい献立の作成など、ソフト面の充実に取り組んでほしい。実施には多くの課題も出てくると思うが、特に学校の教職員が不安に思っている食物アレルギーの対応や給食費の徴収の方法については特段の配慮をお願いしたい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	学校教育課
教育プランの位置付け	3-4-3

No.14	施策名	学校図書館充実のための学校司書の拡充
施策の概要	目的	子どもたちが読書活動を通じて言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにすることで人生をより深く生きる力を養う。
	達成すべき目標	各校に学校司書を週3日以上配置できる体制を作り、子どもたちの読書活動を推進する。

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項

司書資格を有する11人の職員が「学校司書」として1人当たり2校を担当(各校週2日勤務)し、司書教諭の職務を補佐しながら子どもたちの読書活動を推進するとともに、司書教諭の専任配置について引き続き、国・県への要望活動を行った。

また、小学生は、読書活動の習慣付けの大切な時期にあるため、全ての小学校で学校司書の週3日配置を実現できるよう、令和2年度からの実施に向けた有資格者の募集等の準備を進めた。

施策の経費		09・02・01・085・020・002 小学校教育費(報酬、旅費) 09・03・01・089・020・002 中学校教育費(報酬、旅費)					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	7,477	6,708	6,742	6,951	7,211	9,728
	決算額	7,338	6,573	6,625	6,834	6,853	
	執行率(%)	98.1	98.0	98.3	98.3	95.0	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	小学校への学校司書の週当たりの配置日数	2日	2日	2日	2日	3日	3日
			2日	2日	2日	2日	
	中学校への学校司書の週当たりの配置日数	2日	2日	2日	2日	3日	3日
2日			2日	2日	2日		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	学校司書11人を1校当たり2日、全22校に配置するとともに、令和2年度からの小学校3日配置の準備に取り組んだ。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	子どもが興味を持っている選書の工夫等、魅力ある学校図書館づくりに努めた。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	小学生は読書活動の習慣付けの大切な時期にあるため、令和2年度から全ての小学校で学校司書の週3日配置を実現できた。ただし全ての小中学校で週3日配置するためには、有資格者の確保や配置方針等の検討が必要となっている。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	国のGIGAスクール構想を踏まえた「蔵書検索システム」の導入や、地域開放を含めた学校図書館の将来的なあり方について検討を進める。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	全ての小中学校に学校司書を3日配置するためには、有資格者を22人確保(令和元年度の11人に対して11人増員)することが非常に困難な中、まずは読書指導の必要性が高い小学校で令和2年度から週3日配置を実現するための準備を行った。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	達成すべき学校司書の配置日数の増加が未達成の状況で、進捗状況が「B:計画どおり」という自己評価は疑問が残る。一方で、次年度、読書指導の必要が高い小学校で週3日配置できる準備ができたことは、喜ばしい成果として捉えたい。 今後、GIGAスクール構想を踏まえた連携や開放を進めていくに当たり、司書の常駐化を目指し、学校図書館における情報発信や調査研究といった機能を高めるなど、図書館司書の新たな役割についても検討していく必要がある。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	令和元年度には小中学校への週3日配置を実現できなかったものの、有資格者の確保が困難な中で配置を見直し、有資格者の増員募集を行うなど、まずは小学校で週3日配置できる体制づくりを着実に進めたことを評価する。また、小中学校における読書指導の連続性や接続性等を考慮して、同じ地区の小中学校図書館は原則として一人の司書が一体的に担当する体制としたことも評価できる。 学校図書館司書は読書指導だけでなく、学校図書館の環境整備にも積極的に取り組むなど大きな役割を担っているので、司書教諭の配置に関する国県要望も継続しながら、中学校でも週3日の配置を実現できるよう、引き続き取り組んでほしい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課
教育プランの位置付け	4-1-1

No.15	施策名	公民館事業の充実
施策の概要	目的	生涯学習やコミュニティ活動の拠点である公民館事業の充実を図ることにより、市民一人ひとりが人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたり学習し、その成果を生かすことができる社会の実現を図る。
	達成すべき目標	公民館自主事業参加者数の増加

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>各公民館において、地域資源の掘り起こしに努めるとともに、他の公民館との共同開催により、普段交流が少ない地域間のふれあいに寄与することができた。</p> <p>【工夫、改善事項】 小中学校の夏休み期間を利用して、公民館の施設を開放することにより、子どもの居場所づくりするとともに、公民館の利用者の増につなげた。</p>
--------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・05・03・098・010・001 公民館活動費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	3,640	4,598	3,365	3,387	3,064	2,856
	決算額	3,538	4,598	3,129	3,048	2,910	
	執行率(%)	97.2	100.0	93.0	90.0	95.0	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	公民館自主事業の参加者数	55,489	55,500 53,447	55,750 52,531	56,000 55,521	56,250 49,262	56,500

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、3月の自主事業が中止となったため、参加者数は目標値を下回ったが、ほぼ達成したと評価した。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	小中学校の夏休みを利用して、公民館の空き部屋を、こどもの居場所づくりとして開放するなど、新しい取組に努めた。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	概ね目標値を達成出来ているが、今後も市民が関心を持つ分野に関する新規事業を検討し、地域における社会教育の環境充実に努める。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	引き続き、幅広い世代の参加を促すためのニーズの把握に努めるとともに、効果的なPRを検討する。また、東海大学や地域の学校との連携、図書館と協力した子どもの読書推進などに関連させるため、公民館図書室の利用促進に努めていく。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	市民提案型事業及び公民館連携事業、地域協働事業について、概ね実施することができた。目標値を下回ったが、多くの市民が参加できるよう、前年度の開催状況を写真で展示し、視覚的にPRするなど工夫改善を行い、事業参加の増に向けて努めた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	夏休み学習室設置の取組は、子どもの居場所づくり、空き部屋の有効活用として有意義であったが、学習室稼働率の向上策も考えていく必要がある。 子どもの居場所づくりは、「いじめ問題対策連絡協議会」や不登校児のための「教育支援教室」などと協働し、学校に登校できない児童の居場所としての活用など、市として共通理解を図っていただきたい。 今後は、更なる公民館利用者の増を目指して、子どもや若者が集まる環境づくりや、現代的な課題を学べる講座や研修の開催など、創意工夫により、魅力ある事業を実施するとともに、広報にも努めていただきたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	公民館においては、積極的な地域資源の掘り起こしに努めるとともに、利用者のニーズにあわせた事業を、様々な工夫のもとで実施していることは、評価できる。 参加人数は、目標値を下回っているが、新型コロナウイルスの感染が拡大したことを受け、国の方針でイベントの自粛、中止が要請されたことで、本市においても公民館事業も含めた、様々な行事、イベントが中止になったことによるもので、引き続き、地域の特性を生かした魅力ある事業の展開を期待する。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課 図書館
教育 プランの 位置付け	4-2-1

No.16	施策名	魅力ある地域学習の推進
施策の概要	目的	秦野の自然・歴史・文化・産業などの地域資源をはじめ、現代課題などの地域学習の機会を提供することにより、市民の郷土意識の高揚や地域活動の活性化を図る。
	達成すべき目標	ふるさと講座や市民大学など各種事業の継続実施

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>・地域学習として様々な分野における現代的・社会的・公共的課題に対応した講座（ふるさと講座）や、家庭教育支援に関する講座を年間通して開催し、市民の意識の啓発と多様な学習機会の提供を図った（報徳仕法を広める講演会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い中止）。</p> <p>【工夫・改善事項】 ふるさと講座や家庭教育支援に関する講座の申込方法に電子申請を取り入れ、24時間受付できる環境を整えた。 ※ 電子申請人数/受講者数…ふるさと講座 43名/324名（6講座） 家庭教育支援に関する講座（一般者） 6名/17名（他、PTA関係者203名） また、家庭教育支援に関する講座は、秦野市PTA連絡協議会の総会時に実施し、PTAとの協働事業とすることによって、参加者の増に結び付けた。</p> <p>・東海大学との提携事業「市民大学」では、大学教授などの専門家を講師に招き、市民の生涯学習に資する文化や教養等をテーマとした専門的な知識の講座を開設している。今年度は、毎年の連続講座として好評な「万葉集の世界」のほか、江戸時代の思想や文化についての3講座を開催した。</p> <p>【工夫・改善事項】 「万葉集の世界18」については、新元号の典拠となったことから、該当の箇所をわかりやすく解説していただいた。</p>
--------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・05・01・096・020・001 ふるさと講座開催経費 09・05・01・096・020・002 たけのこ学級開催経費 09・05・01・096・040・001 生涯学習推進費 09・05・03・098・030・001 上放課後子ども教室実施経費 09・05・04・099・070・001 市民大学開催経費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	7,303	3,079	2,931	2,829	2,456	2,454
	決算額	5,571	2,232	2,667	2,649	2,123	
	執行率(%)	76.3	72.5	91.0	93.6	86.4	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	ふるさと講座等の開催回数	7回	7回	7回	7回	7回	7回
			7回	8回	8回	7回	
市民大学の開催回数	8回	10回	10回	10回	10回	10回	
		10回	10回	10回	10回		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	計画的な開催と広報に努めながら、市民の多様な学習ニーズに即した各種講座を実施した。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	・ふるさと講座等の申込方法に電子申請を取り入れることで、休日や夜間など24時間申込みできる環境を整えた。 ・市民大学受講者のアンケートでは、大学教授によるわかりやすい講義が好評であった。 市民大学：313名
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	ふるさと講座について、より専門性の高い講座を開設し、本市のまちづくりに必要な担い手づくりにつながる自主団体の形成を目指していく。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等		引き続き、アンケート等による受講者のニーズの把握と効果的な広報に努め、魅力ある講座の実施を図る。さらに、年間あるいは半年間の講座の日程を前もって周知することによって、市民が予定を立てられやすいようにしていく。 生涯学習講座に関しては、新たに専門講座を開設し、1つのテーマに対してより深く学ぶことで、本市のまちづくりに必要な担い手の育成を補助し、自主団体形成を目指す。 市民大学については、東海大学との提携事業として、歴史や文学等の専門性の高い学習機会の充実に取り組む。		
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	市民の高度で専門的な学習要求に応え、学習へのきっかけづくりへ繋げるため、多様な分野の講座を提供するとともに、受講者へのアンケートを行って市民ニーズの把握に努めている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	A	ふるさと講座は、目標値を上回る回数を実施するとともに、内容に新味さが加わり、専門性と多様なテーマを目指している点が評価できる。また、講座の申込みを24時間対応できるようにするなどの取組により、市民大学とともに多くの受講参加者があった。 今後も、1回だけの講座ではなく、継続的に深く広く系統的に学べるなど、企画の充実を図るとともに、各社会教育施設の自主事業や行事を年3冊ぐらいの分冊子にまとめ、市民に早めの情報提供をするなどの積極的な広報に努めていただきたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	A	今回の新型コロナウイルス感染症関連で予定していた事業が実施できないなど影響があったものの、ふるさと講座、市民大学については、内容を工夫しながら予定どおり実施することができた。 特に、ふるさと講座は、新たな取組として、電子申請を取り入れて参加者の募集を図るなど、24時間受付可能としたことで、より市民の立場に立った事業としたことは評価できる。 市民大学では、市民が生涯わたって学習を続けるという観点から、東海大学との提携によるテーマの充実を期待する。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	4-4-1

No.17	施策名	図書館サービスの充実
施策の概要	目的	市民の読書機会を提供する施設として、本を利用しやすい図書館のネットワークや、サービス体制の拡充などを図るとともに、効果的・効率的な図書館運営に努める。 また、地域の情報拠点として、市民の「読みたい・知りたい・学びたい」に応える図書館を目指し、図書館資料の計画的な整備を進める。
	達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料受取場所の拡充 ・サービス体制の向上

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館図書室とのネットワーク及び4駅連絡所への予約資料搬送サービスを活用した市民への図書館サービスの提供を進めるため資料の充実を図る。 ・図書館システムの更新により、検索機能等の改良を図るとともに、オンラインでの利用統計の作成など、事務の効率化に取り組んだ。
--------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・05・04・099・030・001 図書館資料等購入経費 09・05・04・099・040・001 図書館活動費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	22,674	22,612	23,457	20,271	26,354	24,539
	決算額	21,882	21,611	22,469	20,033	25,392	
	執行率(%)	96.5	95.6	95.8	98.8	96.3	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	予約資料の受取場所数 (図書館・移動図書館以外)	12	12	12	13	13	13
			12	12	15	15	
	配送による図書館資料の搬送点数	232,842	235,000	237,000	240,000	240,000	240,000
237,186			230,683	225,909	228,976		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	配送による資料の搬送点数は目標値の96%の達成だった。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	公民館図書室及び駅連絡所等とのネットワークを構築し、市域全体で図書館蔵書を利用できる環境の整備に努めている。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	関係部署と連携・協力を図りながら、身近で便利な図書館サービス網の構築に取り組んでいる。また、市民・利用者ニーズの把握にも努め、図書館サービスの充実に生かしていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<ul style="list-style-type: none"> ・より効率的な業務運営を図るため、次期委託の検討を進める。 ・少子高齢化の急速な進行や電子機器の進展による読書環境の変化などにより貸出冊数について減少傾向がみられるが、図書館を身近に活用してもらうために、図書館資料の情報提供を進め利用の拡大に取り組む。 			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	子どもから高齢者まで、幅広い世代の市民が読書に親しむとともに、市民が生涯にわたって行う様々な学習活動に役立つように、図書館資料の充実や図書配送システムの拡充などの利用環境の整備に取り組んでいる。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>市民への配本サービスは、かなり行き届いていることが認められる。「サービス体制の向上」として、さらなる公民館ネットワーク化を進め、合わせて、高齢者や障害者の手段を拡充し、次の図書館計画も見据え、SDGsや読書バリアフリー等を意識した展開は必須と考える。</p> <p>図書館の理念を再検討し、市民が「学び・集い・活動」できる、明るく・楽しい・本の広場として、機能性を高め新時代に適応した図書館の創造に取り組まれることを期待する。</p>		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>市民の多様なニーズに応えられるように、様々な分野の資料や情報の収集に努めるとともに、公民館図書室等との連携により、身近な場所において利用できる予約図書の搬送サービスは評価できる。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、利便性の向上に向けて、工夫に努めてほしい。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	4-5-1

No.18	施策名	子どもの読書活動の支援
施策の概要	目的	子どもたちに読書の楽しさを伝え、本に親しむ機会を提供するとともに、読書環境の整備を図る。
	達成すべき目標	子ども読書通帳の配布 年1,000冊

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子ども向け図書の収集・整理・保存・提供等(新規購入数のうち児童書4,019冊、一般書5,816冊) 子ども向け図書の企画展示(34回) 春と秋の読書週間等にあわせて読書に親しむイベントを開催 子ども読書通帳の配布 904冊 ブックスタート 23回 859人 おはなし会 68回 841人 映画会 15回 386人 朗読コンサート「西巻茅子さんの世界」 51人 講座・講演会(絵本とおはなしの講座全4回延べ58人 子ども読書活動推進事業講演会「森谷明子氏講演会」59人) 学校関連の図書館見学 109人 <p>【工夫・改善事項】</p> <p>小学校の見学や、中学生の職場体験等を通じて、図書館利用のきっかけとしていただくため図書館のサービスについて周知した。</p> <p>10代向けに読書に関心を持っていただく機会として、中・高校生を対象とした図書館ボランティアの受入れを実施した。</p>
--------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・05・04・099・040・001 図書館活動費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	1,083	1,099	1,097	1,101	969	969
	決算額	1,095	1,105	987	756	913	
	執行率(%)	101.1	100.5	90.0	68.6	94.2	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
	指標名	目標値 実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	
	子ども読書通帳の配布数(冊)	862		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
				1,193	922	913	904	
	ブックスタート事業での健診対象者への絵本配布率(%)	97.8		98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
			98.5	98.0	98.7	99.3		

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	子ども読書通帳の配布数は目標値の90.4%であった。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	中・高校生ボランティアの受入れ、学生有志による読書関連行事の実施など様々な機会を捉え、子どもの読書活動の支援に取り組んだ。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	子どもの読書活動を推進するためには、家庭や学校など周りの大人への働きかけも重要であり、子どもの成長に合わせて本に触れ、読書の楽しさを知ってもらえるような支援に努めた。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	絵本から読書の豊かな世界へと出会うためには、周りの大人たちの手助けが必要であり、学校図書館との連携とともに、保護者などに対する各種啓発事業に取り組んでいく。今後、活動内容や受入体制の見直しを通じて効果を検証する。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		家庭、学校、地域において生活のあらゆる場面に本があり、手に取りやすい環境づくりに取り組んでいる。大学生の企画による読書イベントを開催するなど、子ども向けの事業の充実が図られた。また、ブックスタート事業については、配布絵本の入替えなどにもボランティアの協力をいただき事業の充実に努めている。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	赤ちゃんから高校生まで、そしてその周りの大人への支援と、視野を広くもった取組を評価する。 子どもの読書生活を豊かにするため、学校図書館との連携や家庭への効果的な働きかけに取り組んでいただきたい。引き続き、子ども読書通帳を普及に努めるとともに、子どもの成長に合わせて、本に触れ、読書の楽しさを知ってもらえるような取組を望む。 また、新しい図書館システムではホームページに子ども用のページもあるので、「エーデルワイス」(子ども向け情報誌)とともに活用されたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	各年代の子どもたちが本に親しむ機会として、ブックスタートから中学生・高校生の職業体験等まで、多くの事業を実施しており、これからも継続して取り組んでほしい。感染症拡大防止対策については、今後の感染の広がりなどを見ながら適宜見直し、適切な対策を徹底してほしい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課
教育プランの位置付け	4-6-1

No.19	施策名	公民館施設長寿命化の推進
施策の概要	目的	公民館の計画的な改修等を行うことにより、施設の長寿命化を図り、快適で安全・安心な学習環境を確保する。
	達成すべき目標	耐用年数等に応じた計画的な施設・設備の改修

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>以下の2箇所の公民館において、施設の機能維持に不可欠な重要設備である空調設備や受変電設備等を重要設備等更新計画に基づき、計画的な改修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東公民館空調機更新工事 南が丘公民館高压引込設備更新工事 <p>また、施設の維持管理に必要な改修工事を次の通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東公民館トイレ洋式化工事 北公民館外構整備工事 大根公民館コンクリートブロック塀改修工事 <p>【工夫、改善事項】 財政状況を勘案しつつも、計画に位置付けた工事以外と他に必要な工事について、適切に対応し、さらには、北公民館外構整備事業は、ゼロ市債対応するなど、財政状況に応じた対応をした。</p>
--------------------	--

施策の経費	予算事業名	09・05・03・098・020・001 公民館営繕工事費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	24,500	25,630	77,660	60,480	42,500	20,824
	決算額	22,160	21,950	65,235	49,981	35,574	
	執行率(%)	90.4	85.6	84.0	82.6	83.7	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	公民館施設・重要設備更新計画による工事計画件数	5件	4件	4件	12件	5件	4件
			5件	5件	3件	5件	

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	重要設備等更新計画以外に、トイレ等、施設維持のための改修工事を適切に実施した。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	工事実施時には、利用者へ影響が最小限になるように努力し、利用者から工事に対する苦情はなかった。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	設備等の改修の緊要度を検討しながら、今後の施工年度に偏りがないように、年度間の平準化を図っていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>計画に位置付けた工事以外に突発的な対応が必要な案件が生じる可能性を考慮するとともに、公民館トイレの洋式化と快適化を図るため、新しい総合計画に改修計画を記載し、予算措置を行っていく。</p> <p>さらに、行政経営課で作成する公共施設再配置計画や公共施設等総合管理計画と連動して年数が経過した公民館の建て替えについて検討していく。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
公民館施設・重要設備更新計画を策定し、計画的な工事を行っており、3公民館で施設の改修及び更新を実施した。今後については、財政状況を見据えた中で、平準化を図るなどをして、目標達成に向けて計画的に工事を実施する。				
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	3件の改修工事も滞りなく実施され計画的に改修工事が行われている。厳しい財政状況を踏まえながら、引き続き、施設、設備の改修が着実に計画通り行われることを望む。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>重要設備の更新に当たっては、財政状況が厳しい中、利用環境の向上に向け、計画的に実施するとともに、最低限の休館日で更新工事を実施するなど、利用者への影響を考慮する姿勢は評価できる。引き続き、耐用年数に加え優先順位をしっかりとつけて対応してほしい。</p> <p>今後、更新工事とは別に、課題となっているトイレの洋式化やバリアフリーの推進について、速やかに着手することを望む。</p>		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	4-7-1

No.20	施策名	施設の長寿命化計画等の推進 (図書館)
施策の概要	目的	利用者が快適で安全・安心に利用できる図書館の整備を図る。
	達成すべき目標	施設の長寿命化計画 (平成20年～令和6年) に基づく進捗率 42%

令和元年度事業内容及び工夫・改善事項

図書館の施設長寿命化計画 (平成20年度策定) に基づく平成29年度に予定していた受変電設備更新工事について、平成30年度の実施を見送り、隣接する文化会館の受変電設備更新工事と一体化し、令和元年度に実施した。築34年が経過する施設で、修繕の必要箇所が増えており、限られた財源の中で、緊急性・必要性 (利用者への影響、法的要件) の高いものから順次修繕等を進めるとともに、消耗品を活用した直営修繕等も行い、予算を最大活用した維持管理を行っている。

施策の経費	予算事業名	09・05・04・099・020・001 施設維持管理費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	1,170	2,700	4,400	0	31,000	12,900
	決算額	776	2,635	4,331	0	23,111	
	執行率 (%)	66.3	97.6	98.4	—	74.6	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	施設の長寿命化計画に基づく進捗率 (%) (策定時実績)	26.4	29.0	29.0	42.0	42.0	42.0
			27.8	29.0	29.0	42.0	

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	見送られていた受変電設備更新工事を実施したことにより、1年度遅れではあるが、目標としていた進捗率42パーセントに達した。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	経年劣化による不具合が生じている施設・設備については、優先順位を決めて修繕を行い、図書館の安全で快適な環境の維持に努めた。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	本市における、再配置計画及び公共施設保全計画との整合性を図りつつ、適切な時期に改修できるように再検討する必要がある。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等		直近の課題としていた、照明器具のLED化(安定器老化による漏電が平成29・30・令和元年度に発生)については、閲覧室の高天井部分及び視聴覚室で本年度施工する予算を計上した。全館のLED化については、市全体の方針と照らし合わせ検討する。 また、図書館施設・設備の老化や中長期的な利活用等については、次期総合計画、公共施設再配置計画、公共施設保全計画(仮)等との整合性を図りながら着実に実施できるように検討する。		
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C			
	評価の理由			
	施設長寿命化計画に基づく営繕工事等が実施できず、少し遅れが生じている。そのような中でも、読書環境の低下や施設・設備の老化等を防ぐため、小規模修繕や直営修繕等を行い、可能な限りの対処をしている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	懸案事項となっていた受変電設備更新工事が実施されたことに安堵している。修繕工事等に少し遅れが生じているとのことだが、施策の目標値42%はクリアしているので総合的に十分評価できる。 築後34年を経るといろいろな所で劣化による不具合が生じるのはやむを得ないが、万が一、事故が発生してからでは遅いので、優先順位を決めて、ぜひ快適で安全安心な図書館の環境を市民に提供してもらいたい。 なお、令和6年までの計画に対する進捗率として、目標値(42.0%)の設定が低いため、安全確保の観点から、目標値を上げて、適切に進めていただきたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	施設・設備の老化が進む中で計画的に改修に取り組み、快適で、安全・安心な読書環境を確保していくことは重要な課題である。新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮しつつ、できるだけ市民サービスの低下にならないように努められたい。限られた財源の中で、優先度とコスト面を踏まえ、引き続き、施設の長寿命化とともに、利用者の安全・安心と利便性向上を図るため努力をしてもらいたい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名

生涯学習課

No.21	施策名	文化財・歴史文化資料等の活用の推進					教育 プランの 位置付け	5-4-1
施策の概要	目的	貴重な文化財や歴史文化資料などを効果的に活用し、市民の歴史文化に対する理解を深め、郷土に親しむ心を育む。						
	達成すべき目標	効果的な学習機会の提供の推進						
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		<ul style="list-style-type: none"> 普及啓発事業の実施 ミュージアム青空レクチャー（震生湖、曾屋水道、稲荷木遺跡）、ミュージアムさくら塾（4回：震生湖パネルディスカッションを含む）、夏休み親子まが玉作り教室（4日）、たばこ資料展、発掘調査報告書「秦野の遺跡12」の刊行を行った。 桜土手古墳展示館の運営 企画展（4回：丹沢に魅せられて前期、後期、昔のくらし秦野の風景、秦野のスポーツあの日あの時）、春季特別展「秦野の平成史」、秋季特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2019」を開催した。 工夫、改善事項 震生湖の国登録文化財具申に向けて地域の機運を高めるためミュージアムさくら塾の3回目を震生湖パネルディスカッションとして南公民館で開催し、87名の参加があった。ミュージアム青空レクチャーについては、新東名の発掘調査が終盤に差し掛かっており、かながわ考古学財団との共催の見学会の開催も1回となったが、750名の参加があり、新東名関連の遺跡見学会では県内最多となった。また、残りの2回については震生湖と曾屋水道についての見学会とした。 						
施策の経費	予算事業名	09・05・01・096・050・001 市史資料保管活用費 09・05・02・097・020・001 文化財普及啓発経費 09・05・02・097・030・001 文化財保存管理経費 09・05・02・097・040・001 博物館資料・文化財調査整理経費 09・05・02・097・050・001 桜土手古墳公園・展示館管理運営費						
	【単位：千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
	予算額	32,086	25,433	28,697	23,607	28,312	46,601	
	決算額	28,482	23,565	22,991	22,446	24,814		
	執行率(%)	88.8	92.7	80.1	95.1	87.6		
施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
	指標名	目標値 実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	
	文化財特別公開参加者数	1,253	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
	歴史文化講座受講者数 (人/回) (平均)	225/6 (平均37)	1,250	1,527	2,577	1,369		
			250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	
桜土手古墳展示館入館者数	25,813	289/6 (平均48)	231/6 (平均39)	296/6 (平均49)	229/4 (平均57)	250/6 (平均41)		
		24,800	25,000	25,390	26,000	26,600		
		28,941	29,220	32,332	26,863			

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	A	震生湖の国登録意見具申に向けて見学会やパネルディスカッションを開催したことで、参加者の増を図った。新型コロナウイルス感染症流行による3月の休館があったものの入館者数が目標値を下回ることはなかった。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	震生湖の国登録意見具申に向けて見学会やパネルディスカッションを開催したことで、地域の機運も盛り上がり、意見具申書の提出も早まった。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	文化財特別公開事業にややマンネリ化が見られるため、ミュージアム青空レクチャーとの組み合わせなど、新たな検討をしていく必要がある。また、さくら塾についても、早い時期に年間スケジュールを公にしていく必要がある。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	今後桜土手古墳展示館から、はだの歴史博物館へリニューアルするのに当たり、定期的に博物館トークを実施することによって、市民が来館しやすい環境づくりを図る必要がある。また、他分野にわたる企画展を実施するに当たっての資料の収集、整理スペースを確保する必要がある。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		震生湖の国登録に向けての意見具申に合わせて、専門家を招き見学会やラウンドテーブルを開催するなど、相互に関連する事業を開催することで、本市の文化遺産に対する学習機会の相乗効果を上げることができた。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	A	震生湖の国登録意見具申に向け講座受講者数は平均を上回り、地域の方々の機運も上がり、意見具申書を早く提出することができたことは喜ばしく、また、市民の参加実態を見ると、市民の興味・関心に応えられていると思う。 年度ごとに年間のテーマを設定し、系統的・継続的な学びができるようにするなど、今後も工夫をしながら、多くの方々の興味と理解を深め、郷土への誇りを育む学習機会の提供を望む。また、所蔵する文献のデータ化と公開(見える化)、市立図書館との連携は急務である。 はだの歴史博物館へのリニューアルに当たっては、案内図や写真を多用した、より親しみやすいホームページの作成を検討するとともに、新たな企画への取組を期待する。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	A	震生湖の国登録に向けての事業として、現地見学会やラウンドテーブルを実施し、地元の機運を盛り上げ、早期具申につなげたことは、評価できる。 かながわ考古学財団との共催で行っている新東名の発掘調査については市民の関心も高まっている。引き続き、はだの歴史博物館の事業として、こうした現場の見学会や成果展示を開催していただきたい。 また、はだの歴史博物館では、展示スペースが限られていることから、無形民俗文化財等の紹介映像や歴史的写真等のデータベースを作成して活用を図るのが望ましい。		

令和2年度(元年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	5-4-2

No.22	施策名	特色ある図書館づくりの推進
施策の概要	目的	郷土出身の歌人前田夕暮などの残した文学遺産を継承及び活用し、「短歌のふるさとづくり」を進める。
	達成すべき目標	夕暮祭短歌大会、夕暮記念こども短歌大会の参加者及び作品数の増加
令和元年度事業内容及び工夫・改善事項		<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第32回夕暮祭短歌大会及び第33回夕暮記念こども短歌大会の実施 <p>【工夫・改善事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 選者の交代を行い新たな視点から作品の選考を行っていただいた。

施策の経費	予算事業名	09・05・04・099・050・001 郷土文学資料収集等経費					
	【単位:千円】	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	予算額	428	481	664	383	506	502
	決算額	423	473	650	377	495	
	執行率(%)	98.8	98.3	97.9	98.4	97.8	

施策の目標	年度	平成27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	夕暮祭短歌大会の応募作品数(首)	487	300 301	300 452	300 618	300 607	300
	夕暮記念こども短歌大会の応募作品数(首)	1,961	2,000 2,560	2,000 2,290	2,000 2,163	2,000 2,540	2,000

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	A	夕暮祭短歌大会及び夕暮記念こども短歌大会ともに目標値を超える作品の応募が得られた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	夕暮祭短歌大会では、インターネットなどの活用により、より広い地域での関心を高めることができた。夕暮記念こども短歌大会では、小・中学校の協力を得て、児童・生徒に興味を持ってもらうことができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	市内外の関係者と連携・協力しながら、継続して実施している。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	夕暮祭については、全国的に展開している中、市民の応募者数は9.4%、夕暮記念こども短歌大会への応募者数は、対象児童・生徒数の32.6%となっているので、市民及び児童・生徒の応募を増やしていく取組が必要である。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B	評価の理由		
	郷土の歌人の業績や作品を紹介しながら、市民が郷土の優れた文学作品に親しむ環境を整えるとともに、貴重な資料の保存と有効活用を図り、短歌のふるさとづくりに努めている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	夕暮祭短歌大会は32回、夕暮記念こども短歌大会は33回実施され、応募作品数も目標値を大幅に上回り、充実した取組とともに十分な成果が達成できている。 「特色ある図書館」として「短歌のふるさとづくり」を掲げ、短歌大会への参加の増加を目標としているが、次の段階として、市民が「短歌のふるさと」とイメージできるような具体的なビジョンの提示が必要と考える。例えば、参加するだけでなく、市民が継続して新しい文化を創り出していくことができるように、各公民館に「子ども短歌教室や俳句教室」などの開設につなげていくのも一つである。また、企画展示との連動や資料の更新のほか、他の郷土資料への取組も準備されたい。		
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	郷土ゆかりの歌人、文学者についての理解を広めるため、継続して取り組んでいる短歌大会等は、秦野の特色となっている。今後も、郷土の文化に対する関心や興味を高めるために、引き続き魅力ある事業に取り組んでほしい。また、子どもたちの読書への取組も期待したい。 「特色ある図書館づくりの推進」として、新たな展開を研究していただき、広く市民に親しまれる図書館づくりに努力してほしい。		